

E

ENVIRONMENT

環境



資源循環型社会

生産・施工など各段階の資源活用最適化を進めるとともに、
ライフサイクル全体を通じた循環型事業で循環型社会の実現を支える

重要なステークホルダー

お客様、協会社(素材メーカー、積水ハウス会、中間処理業者、解体業者)

背景

ひっ迫する資源枯渇に向けた高効率な資源利用と循環型社会の実現

SDGsでも「目標12」で持続可能な生産消費形態の確保が求められているように、世界的な人口増加に伴い資源やエネルギーの需要が高まる中、すべての人の安定した暮らしを支えるためには、企業が製品のライフサイクル全体

を最適化し、資源効率性を向上させることが不可欠です。住宅の場合は、リサイクル技術の普及開発に加え、社会ストックでもある住まいの価値向上に向けた、社会変化に即したサービスやサポートの充実も期待されています。

アプローチ



目指す姿

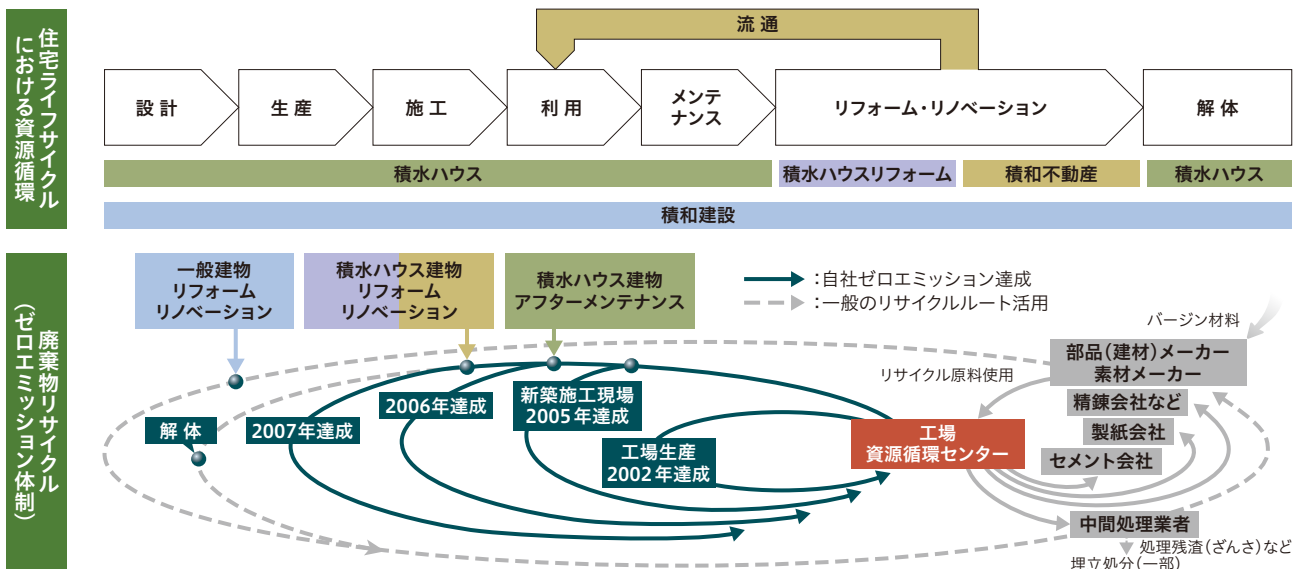
グループ連携と事業プロセス革新による循環型ビジネスモデルの構築

大量の資材を利用する産業として、建設業界で初めて認定取得した「広域認定制度」を活用し、建築のライフサイクルを通じた効率的な「ゼロエミッション※」によって、資源循環のループを拡大。さらに、多彩な業態を擁する

グループの総合力によって、ストックとしての住宅の価値を維持拡大するための新たなビジネスモデル構築や市場創設をリードします。

※ 産業廃棄物の単純焼却と埋め立て処分ゼロを内容とする

グループ連携による循環型ビジネスで住宅の長寿命化を実現



活動方針

1 住まいにかかわる資源の有効活用で資源循環型社会の形成に寄与

適切なメンテナンスや、時代のニーズに応じたリフォーム・リノベーションによって住宅を長寿命化していきます。同時に、社会に多く存在する優良なストック住宅の価値を適正に評価し、その流通を活性化させて市場を形成することで社会資産のロスを減らし、資源保護につながり、業界をリードしていきます。限りある資源を有効活用することによって循環型社会の形成に貢献します。

2 ストック型ビジネスの拡大に伴い増加する廃棄物リサイクルをグループで推進

住宅の物理的・社会的な長寿命化と並行して、リフォーム・リノベーション等の拡大に伴う廃棄物の再資源化にも注力。全国21カ所の「資源循環センター」を核とする独自の廃棄物適正処理システムや回収の効率化を高めたクラウドベースの回収管理システムをはじめ、グループ全体でパートナー企業とともに適正なりサイクル体制の構築を進めています。

進捗状況

1 住まいにかかわる資源の有効活用で資源循環型社会の形成に寄与

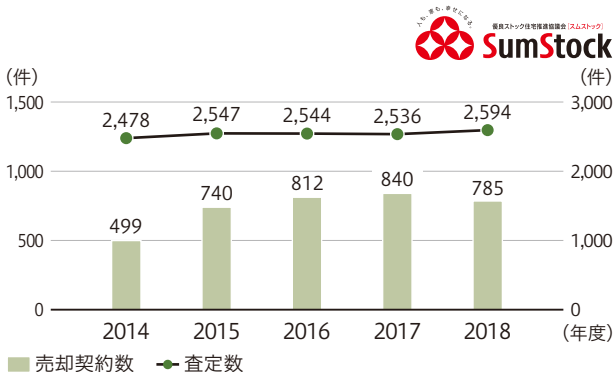
活動報告

優良ストック住宅「スムストック」の普及

優良ストック住宅の流通の活性化と適切な市場形成を目指して、当社を含む大手住宅メーカー10社は一般社団法人 優良ストック住宅推進協議会に参加しています。同協議会が認定する住宅販売士が建物の構造(スケルトン)と内装・設備機器(インフィル)に分けて査定し、土地・建物別に価格を表示する独自の流通システムで

「スムストック」を連携して推進しています。

当社グループでは、当社独自の住宅履歴情報「いえろぐ」を活用した「スムストック」の提案を推進。当社カスタマーズセンターと積水ハウスリフォーム、積和不動産の当社グループ各社が連携し、良質な住宅の流通を促進する「スムストック」の普及に努めています。



「プラスチック・スマート」への参加

施工現場のプラスチックは100%回収し、既に年間約1万7370tのリサイクルを実現しています。



2018年は社会に対するメッセージとして、環境省が推進する「プラスチック・スマート -for Sustainable Ocean-」キャンペーンに参加し、オフィスでのペットボトル使用を禁止していくなど事業用のプラスチック以外のワンウェイプラスチック※削減の取り組みも始めました。

※ 1回使用されたあと、ごみまたは資源として回収されるプラスチック

主要指標の実績(KPI)

指標	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	定義
「長期優良住宅※」認定取得率	%	92.1	92.0	90.5	92.6	92.5	※ 構造躯体の劣化対策、耐震性、維持管理・更新の容易性、可変性など一定の要件を満たした住宅を国が認定する制度
お客様満足度調査の「非常に満足」の割合	%	41.9	42.0	43.3	42.3	42.3	7段階評価で最高評価である「非常に満足」の比率

評価

「長期優良住宅」認定取得は高いレベルで推移しています。「お客様満足度調査」は「満足」「まあ満足」まで含めると95.9%と上昇していますが、サービス体制の充実や品質向上によって、さらに高い評価をいただけるよう

取り組みます。リフォーム事業では当社物件に加え、一般在来住宅からマンションのリフォームまで多彩なメニューの強化を進めており、グループ連携による基盤強化と拡大を図ります。

2 スtock型ビジネスの拡大に伴い増加する廃棄物リサイクルをグループで推進

活動報告

廃棄物を適正に処理・リサイクルする体制の強化

当社グループは住宅のライフステージごとに発生する建材の廃棄物の再資源化に注力しています。建設業界初の廃棄物処理法における「広域認定制度」の認定など、業界に先駆けた取り組みを推進。生産・新築施工・アフターメンテナンス・リフォームの各段階で廃棄物の工場

利用ゼロエミッションを達成しています。

さらに2019年2月に積和建設の新築住宅を含めた積水ハウスと積和建設18社の広域認定共同申請が認定され、積和建設が行う新築住宅についても工場利用ゼロエミッションを進めていきます。

主要指標の実績(KPI)

指標	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	定義
総資材投入量	千t	1,079	1,109	1,098	1,058	984	当社工場が使用する資材量
廃棄物排出量※	千t	728	753	725	678	638	新築・リフォーム、解体廃棄物を含む
新築施工現場廃棄物発生量	kg/棟	1,485	1,506	1,476	1,517	1,563	1棟当たりの発生量(145m ² 換算)

※ 関係会社廃棄物・ビル等の解体廃棄物を含む

評価

1棟当たりの新築施工現場廃棄物発生量は、工法の改善などにより、1999年度との比較では、約6割の大幅な削減を実現しています。日本国内のリサイクル市場は、中国をはじめとした東アジアの廃棄物由来資源の輸入制限の影響により、国内のリサイクルはもとより処理自体が困難になってきていますが、当社は現場での27分別、資源循環センターでの最大80分別まで行う高度分別により、市場の動きにかかわらず、ゼロエミッションが維持できています。

今後の取り組み

新築施工現場廃棄物については、型式ごとの目標値を設け、施工の最適化や余剰部材の削減などを継続的に実施するとともに、廃棄物量の監視を行うことで、確実な処理・リサイクルを維持することを目指します。

さらに、解体工事が含まれるストックビジネスの拡大を踏まえ、パートナー企業や業界団体と協力して、廃棄物の適正処理・リサイクルに関する研究を継続しています。

Topics

パートナーシップで取り組む障がい者支援と資源循環

当社は、建築設備メーカー株式会社ノーリツの特例子会社エスコアハーツグループの障がい者自立支援事業に共感し、これを継続的に支援すべく、当社資源循環センターに集められた給湯器をまとめて提供しています。同事業では、使用済み給湯器を福祉事業者へ分解・分別を委託することで、廃棄物の国内リサイクルと障がい者の就労機会の創出を同時に実現しています。

